

2017年8月吉日

関係各位

水族館劇場 ヨコハマトリエンナーレ 2017 ヨコハマプログラム

芝居公演

もうひとつの この世のような夢 寿町最終未完成版

2017年9月1日—5日 / 9月13日—17日

アウトオブトリエンナーレ 盗賊たちのるなばあく

2017年8月3日—9月17日



拝啓 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、自ら建立する仮設劇場で流浪の興行をつづけてきた見世物芝居劇団・水族館劇場が、「ヨコハマトリエンナーレ 2017 島と星座とガラパゴス」内の「ヨコハマプログラム」に参画し、横浜・寿町の広大な更地をひと夏かぎりの巨大廢園“るなばあく”に変貌させます。

野外テント劇場での芝居公演「もうひとつの この世のような夢 寿町最終未完成版」とともに、園内では「アウトオブトリエンナーレ 盗賊たちのるなばあく」として美術展や講演会など多数のイベントを開催いたします。

ご多忙とは存じますが、ぜひ、ご観覧、ご取材くださいますようご案内申し上げます。

敬具

もうひとつの この世のような夢 寿町最終未完成版
公演日 | 2017年9月1日 [金]—5日 [火] / 13日 [水]—17日 [日]
公演時間 | 18:30~20:30
木戸銭 | 前売 4500円・電話予約 4700円・当日 4800円

アウトオブトリエンナーレ《盗賊たちのるなばあく》
会期 | 2017年8月3日 [木]—9月17日 [日]
開園時間 | 16:00~20:30 木戸銭 | カンパ制
* イベント・講演等のない日は休園日となります。

会場 | 寿町総合労働福祉会館 建替え予定地
(横浜寿町労働センター跡地 横浜市中区寿町 4-14-1)

詳細は同封のチラシ、および下記サイトをご覧ください。
るなばあく特設サイト www.suizokukangekijou-yokohama2017.com
水族館劇場 www.suizokukangekijou.com

【問い合わせ】

水族館劇場ヨコハマトリエンナーレ 2017 ヨコハマプログラム広報事務局
(株式会社 羽鳥書店: 矢吹) szkgekijou2017@hatorishoten.co.jp
tel 03-3823-9319 fax 03-3823-9321 mobile 070-5572-5697



JR 石川町駅 北口 (中華街) 下車徒歩 6分 / JR 関内駅 南口下車徒歩 8分 / 横浜市営ブルーライン伊勢佐木長者町駅 下車出口 1 徒歩 8分



水族館劇場

座長の桃山邑、看板女優の千代次らを中心に、1987年に旗揚げ。建設現場の技術を用いて設立する仮設野外劇場と、25トンもの本水や回り舞台などを使ったケレン味のある演出を特徴とする。これまで、北九州の港湾地区や、光源寺駒込大観音(文京区)、太子堂八幡神社(世田谷区)といった神社仏閣の境内に野外劇場を建立し、公演を重ねてきた。今年4月には、芸能の聖地、花園神社(新宿区)で公演を行い、全10公演、2300人の観客を動員。

YouTube「水族館劇場とは」：<https://www.youtube.com/watch?v=dB6ZhU8djx4&feature=youtu.be>

座付き作家・演出 桃山邑プロフィール

1958年生まれ。現代河原者にして水族館劇場座付作家。若い頃より建築職人として寄せ場を渡り歩く。1980年、曲馬館最後の旅興行から芝居の獣道へ。1987年に水族館劇場として、あたらしく一座創設。ほぼ年に一度のペースで本公演を行い、そのほとんどで作・演出を務める。看板女優・千代次を座長とするユニット「さすらい姉妹」にも台本を書き下ろす。

役者徒党

水族館劇場の野外劇場は、劇団員自らの手で建てられる。小屋を掛けることも、芝居の営みのうち。水落としの仕掛けや、上下(かみしも)に備え付けられた回り舞台なども、すべて人力で動かし、スペクタクルを操る。江戸時代には、お上(かみ)に興行を許された「江戸三座」以外にも、市中にいくつもの芝居小屋が掛けられたという。水族館劇場は、そんな「小屋掛け芝居」の精神を受け継いで、独自の興行のあり方を模索し続けている。

「この世のような夢」

「パノラマ島綺譚外傳 この世のような夢」として、2016年に三重県芸濃町で初演。ロシアへ亡命した往年の大女優と、同時代を生きた劇作家が、大富豪一族を巡る因果と絡み合いながら復活の舞台を目指す……。新宿・花園神社境内に転生した「この世のような夢 全」では、戦後の新宿を思わせる、焼け跡にできた盛り場が舞台となった。そして、3部作の最後となる寿町公演では、花園神社版をあらたに改稿。舞台美術も大幅にリニューアル。

横浜・寿町

寿町は、東京の山谷、大阪のあいりん地区とともに、日本三大寄せ場のひとつと呼ばれることもある、日雇い労働者が多く暮らしてきた街。今回の会場となる場所は、総合労働福祉会館の建替え予定地。寿労働センター、診療所や図書室、公営住宅なども入っていた会館は、寿町で生活する人たちの中心的役割を担ってきた。しかし老朽化などの問題を抱え、再整備されることに。古い建物が取り壊され、新しい建物が建築される、そのつかの間の時空間に浮かびあがる「ひと夏の幻」をご覧あれ。

寿町には千代次がかつて暮らし、普段は現役の建設現場の職人である桃山は、寿町のビルをいくつも建ててきた。役者たちはみな、芝居のない期間は労働者であり、生活者。千代次を座長とする路上芝居ユニット「さすらい姉妹」が毎年正月に興行をうつ、ゆかりの街「寿町」に、役者徒党一世一代の大芝居と、馳せ参じた参画者による一大ページェントが顕現する。



花園神社公演「この世のような夢」

誰かの夢の中に、あるいは自分の過去の夢の中に迷い込んだようだった。——田中優子(法政大学総長)

2017年5月10日毎日新聞

「水のサーカス芝居の一統」の異名をとる水族館劇場の仕掛けはケタ外れ。今回も十数トンもの水を四方から落とすなど、徹底的にスペクタクルにこだわる。

2017年4月8日朝日新聞





盗賊たちのるなばあく 参画者プロフィール（登場順）

会田誠 美術作家。その作品と希有な行動力でつねに物議をかもしてきた現代美術の風雲児。リスクをおそれず真の芸術とはなにかの根源的な問いかけを突きつける。

毛利嘉孝 社会学者、東京藝術大学教授。さすらい姉妹専属演出家。政治のアクチュアリティーを構成するさまざまな人脈を駆使して世間の本質を暴く思考と行動を展開する。

藤田直哉 批評家。地域アートにかかわる論議で水族館劇場と縁ができる。いまもっとも活躍している思考実践者。今回が役者デビューでもある。

野本三吉（加藤彰彦） 前沖縄大学学長。横浜在住。田谷老人クラブ会長。ノンフィクション作家。寿町にかんする著作多数。桃山が日雇労働者として飯場に入った頃から40年のつきあい。

鬼海弘雄 写真家。長年にわたりテーマを追いつづける厳格な表現行為で知られる。インド・東京各地を撮り重ねるシリーズを継起中。もちまへの反骨精神で水族館劇場の強力な助っ人に。

岡本光博 美術作家。神戸ファッション美術館から撤去された「バッタもん」からインスパイアされて桃山&毛利のさすらい姉妹バッタもんコンビが誕生した。作品はキュートでありながらつねに社会に問題をなげかける。

津田三朗 造形作家。劇団健康相談主催。水族館劇場2012博多野戦攻城の実行委員長。できないことがないと思えるくらいに広範囲に能力を有する。劇友として桃山との協働は30年にもおよび。

渡辺友一郎 ヘアデザイングラム社長。2013さすらい姉妹列島南下ツアーではみずからの住み処を会場として提供した。ファンキーな美容院で大勢の若者たちを指導中。

大島幹雄 横浜在住。サーカス研究の第一人者。ロシアへもつながる北の思考で桃山と気脈を通じる。野毛大道芸に精通し、このページの制作協力も担った。

ボッチン 美術作家。アニメーション作家。役者もときどき。盟友、浅野雅英に乞われ水族館劇場の美術をひとしれず支えつづけた。いつの日か野戦攻城の舞台にたつかも。

尾形一郎・尾形優 建築家・写真家。調査・撮影・論考・制作を繰り返しながら、写真・建築・インスタレーション・書籍という様々なフィールドで作品を発表している。

映像制作集団 空族 共に監督・脚本を務める富田克也、

相澤虎之助を中心にインディペンデントで活動する。2011年の映画「サウダージ」で世界的に高い評価を得る。

安田登 能楽師。公認ロルファー。能が持つ本質に躍り寄ってゆくような説得力ある著作群で多くのファンを持つ。今回は演者として玉川奈々福とかりそめのタッグを組む。

玉川奈々福 横浜出身。浪曲師。もと筑摩書房編集者。2014年、姜信子と組んだ千年放浪かもめ組として水族館劇場の仮設劇場で公演。喝采をあげた。

本橋信宏 評論家。サブカルチャー全般、政治事件取材などを得意とする。

東良美季 ライター。小説家。編集者、グラフィックデザイナー、AV監督など幅広く活躍。

鈴木義昭 ルポライター。映画史研究家。ピンク映画にも造詣が深い。

伊藤裕作 文筆家。芸濃町を芸濃い町にする会事務局長。水族館を産土の地、三重・芸濃町に招聘するという無謀なこころみを見事成功させた。

田中優子 横浜出身。江戸文化研究者。法政大学総長。『江戸の想像力』いらい、そのしなやかな感性で、失われた時代の秘宝を現代に紹介してきた。同時代に警鐘をならす自由闊達な発言者としても知られる。

翠羅白 劇作家。曲馬館・夢一族・ルナパークミラージュ・パレスチナキャラバン。テント芝居にこだわり政治的に緊迫する主題を劇作に反映させてきた。水族館劇場にも「漂流都市」を書き下ろす。

鹿兒島正明 現在NPO 空風のバード担当理事。千代次・桃山が寿町ではじめて公演をうった80年代初頭からの力強い応援団。ながらく寿日労委員長として越冬闘争を牽引してきた。

高沢幸男 寿支援者交流会。さすらい姉妹がお邪魔する正月元旦、鹿兒島委員長とともに受けいれの実務を担った。夏祭り実行委員会の事務局長でもある。

荒木剛 山谷争議団。山谷玉三郎とともに、ずっと大晦日のさすらい姉妹路上公演を実現させてきた。普段は活動家らしからぬ博学の徒であり古書店巡りを恒とする。

田中純 表象文化論を主戦場とする思想史家。東京大学教授。ジョルジュ・ディディ＝ユベルマンとも重なりあう思考は桃山にも影響をあたえてきた。今回は表象文化論研究室の展示作品とともに遠征。